

上意討ち 拝領妻始末

観賞日 2020年10月12日

【概要】

制作 1967年 上映時間 128分
原作 滝口康彦
脚本 橋本忍
監督 小林正樹
音楽 武満徹
出演 三船敏郎（笹原伊三郎）、司葉子（笹原いち）
加藤剛（笹原与五郎）、仲代達矢（浅野帯刀）
大塚道子（笹原すが）、神山繁（高橋外記）



【あらすじ】

享保年間の会津松平藩。中流藩士の笹原家当主、伊三郎は剣の腕を見込まれて笹原家の養子となっていた。家族は妻すが、長男与五郎、次男文蔵の4人で自分の経験から長男の与五郎には幸せな結婚をさせてやりたいと願っていた。ある日、藩から藩主正容の側室、市を拝領せよとの命令が下る。伊三郎は断ろうとするが、与五郎は承諾する。伊三郎の心配をよそに、市はすっかり笹原家に溶け込み、与五郎と仲睦まじく暮らし、長女とみを設ける。ところが、世継ぎの突然の病死により市が生んだ菊千代が次期藩主に決まる。すると、藩は今度は世継ぎの生母が藩士の妻では具合が悪いとして、市を返上せよと命じてくる。我慢を信条とする伊三郎であったが二度に及ぶ理不尽な藩命に堪忍袋の緒が切れ、笹原親子は遂に上意を拒絶する決意をする。権力を振りかざしてくる藩庁と一族郎党を敵に回して孤軍奮闘する笹原親子。市の自決。最後に向けられた難敵は藩で伊三郎と並ぶ剣客で盟友でもあった浅野帯刀であった。両雄の手に汗握る決闘の行方は・・・。

所属する組織の理不尽な命令に断固抵抗する主人公の姿に共感を覚える人も多いのでは。

豪華スタッフとキャストが紡ぐ最高の時代劇。

【解説】

■ポイント

●黒澤明が撮らない黒澤映画

橋本忍（脚本）、武満徹（音楽）、三船敏郎、仲代達矢（俳優）等黒澤組の常連が制作。

現代の企業社会に生きるサラリーマンにとって社命と自分の意志との相克は共通の悩み

この作品はその点を明確に描き出しており、主人公の信念を貫いた行動と結果としての滅亡に涙を禁じ得ないサラリーマンOBも多いはず。

上意討ちとは主君の命を受けて、罪人を討つこと。

■見どころ

●上質な時代劇に特有の凛とした美しさ。モノクロ映像の素晴らしさ

●最後の決闘シーン

三船敏郎演じる伊三郎と仲代達矢演じる帯刀の決闘シーンは黒澤映画を彷彿させる。

なお、同一スタッフ（原作：滝口直彦、監督：小林正樹、脚本：橋本忍、音楽：武満徹）による、「切腹」（1962年）も傑作